

in 大阪

今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは  
ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー

## 開催報告書

2023年9月17日(日) 12:00-16:30

【会場】：大阪私学会館

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催

こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2023年11月27日

## 目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2023in ●● 開催概要.....	5
4. 主担当.....	9
5. 高校生 ICT Conference 2023 サミット.....	9
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	9
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	10

## 1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2023 テーマ： 今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー
主催：	高校生 I C Tカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会
共催：	こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発総研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、グリーン株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&amp;活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>新型コロナウイルスで揺れ動いた社会は、ようやく各種の行動制限はなくなりましたが、未だ感染リスクは存在するため、本来密であるはずの高校生の生活環境においても、人と人が直に接するリスクを未だ抱えている状況です。</p> <p>一方、高校生の ICT 利用環境に目を向けると、スマホに加え、一人一台学習端末の導入（いわゆる GIGA スクール構想）により、機能のすぐれたタブレットやパソ</p>

	<p>コンの個人専有が普及しました。さらに自然言語による生成 AI 技術等の目覚ましい進歩と実用化に向けた取組により、多様なシーンで AI 技術が利用されるようになりました。こうした社会環境の変化や情報技術の進歩を背景としたデジタル社会を迎え、今後、益々利用者自身の情報リテラシーや情報モラルが求められるようになってきています。</p> <p>ICT の健全な利用により利用者のデジタルウェルビーイングな状況を維持する社会環境の構築に向けた取り組みは我が国が目指しているところであり、それを支えるのが利用者の情報技術を利用する上での行動規範であるデジタルシティズンシップです。これから迎えるデジタル社会においてその中核をなすであろう現在の高校生が、現在そして将来果たすべき役割とは何か。多様な ICT 機器やサービス、新たに開発される技術の活用において、ICT 利用の最先端を走る高校生が、自身の役割について、斬新な指針とその実現方法を議論し、提言する。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まりました。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められています。</p> <p>更に、国は 2021 年 9 月 1 日にデジタル庁を新設し、2022 年 6 月 7 日に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において”誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化”を目指しています。高校生を取り巻く環境では、2022 年度より「情報」の授業が必修化されました。また、2025 年度からは共通テストで「情報」を加えた 6 教科 8 科目を課すことが決まっています。このように、ICT の利活用はわが国発展のための基盤と位置付けられており、これからのデジタル社会で中核を担う高校生による熱い議論を目指します。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3)アイスブレイク (4)熟議 (5)グループ発表 (6) 講評 (7)サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表 (プレゼン) (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名 (各開催地により変動あり) 募集見学者各回 30 名 (各開催地により変動あり)</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米田謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長)</li> </ul>

実行委員会：	<p><b>【コアメンバー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長）</li> <li>・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事）</li> <li>・ 小城 英子（聖心女子大学）</li> <li>・ 他、関係者団体、事業者等</li> </ul> <p><b>【事務局】</b>          一般社団法人安心ネットづくり促進協議会          〒104-0041 東京都中央区新富二丁目 4 番 5 号 ニュー新富ビル 4 階          TEL: 03-6280-4901</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	9月16日	u-cala
札幌	10月1日	株式会社クレスコ 札幌事業所
帯広	10月1日	とちちプラザ
茨城	8月23日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	10月1日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月17日	NCC 新潟コンピュータ専門学校
静岡	9月18日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
愛知	9月24日	大同大学大同高等学校
長野	10月14日	オンライン
石川	9月18日	金沢勤労者プラザ
大阪	9月17日	私学会館
兵庫	9月9日	兵庫県立姫路東高等学校
高知	9月10日	高知県立伊野商業高等学校
福岡	9月2日	福岡県千代合同庁舎
大分	7月29日	ホルトホール大分会議室
長崎	8月19日	オンライン
全国オンライン1	8月7日	オンライン
全国オンライン2	10月8日	オンライン

### 3. 高校生 ICT Conference 2023 in 大阪 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 42名の参加者を得て、「今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは」ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p><b>【熟議】</b></p> <p><b>司会進行・主旨説明 実行委員長 米田謙三 様</b></p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。今年もオンライン開催ということになったのでオンラインならではのポイントや主旨なども説明してもらいました。(サポート 大学生 矢野 莉央 様)</p> <p><b>開会の挨拶</b></p> <p><b>総務省 近畿総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長 堀 浩人 様</b></p> <p>「高校生 ICT カンファレンス 2023 in 大阪」の開催にあたって、総務省は、学びの場で ICT が適正に活用されるよう、施策を進めていること、例えば、インターネット・リテラシー及び利用実態に関する調査（通称 ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) インターネット上の危険・脅威に対応するための能力を可視化するための調査) その他 e-ネットキャラバン、インターネットトラブル事例集の作成などの取り組みを具体的にご紹介いただきました。</p> <p><b>事業者による講演</b></p> <p><b>エースチャイルド株式会社 西谷 雅史 様</b></p> <p>IT のチカラで子どもたちの未来を明るく IT を安全に使うことをテーマに、自社のサービスの紹介として「つながる連絡 (LINE を使用)」を紹介いただき、優れた発信者になるヒントをいただきました。さらにデジタルシティズンシップとはどういうことかご講演いただきました。</p> <p>また、今日の熟議の進め方として以下のヒントをいただきました。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 テーマの共通認識をはかる</li><li>2 じっくり議論を深める</li><li>3 オンライン以外のことも考える</li><li>4 タイムマネジメント</li><li>5 発表・リハーサル</li><li>6 全力で議論する</li></ol> <p><b>ファシリテーター・参加校紹介 および グループ分け</b></p> <p>久しぶりにリアルで学校ごとの紹介ですが 早速盛り上がりました。</p> <p>4つのグループにわかれてから、グループのファシリテーターを務める大学生が本日の目標の確認、アイスブレイク、自己紹介などを実施しました。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 第二部：熟議「今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー

リアル会場で4つのグループに分かれ大学生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。導入『目的と利用シーンから見た、いろいろなICT機器の役割』『安心安全な活用とは何か（個人情報、防災、防犯）』『ICTの快適な社会的活用』『高校生が社会に果たせる役割とは何か（行動、発信、影響力）』ということを中心にGoogleスライドを活用しながら意見を整理分類しまとめて行きました。具体的な使い方については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。熟議の中で分からない事は、企業の方や先生方にも随時サポーターとして入っていただき、すばやく答えてくださいました。今回、ファシリテーターは大学生でしたが、事前にオンラインでのフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（研修を今年も4回ほどファシリテーターのみで実施しました）なお特筆すべきことは4つのグループを3人のファシリテーターで実施したことです。

今回の大阪の熟議で大切にしたいポイント

- 1, 学校とは何か
- 2, オンラインのメリットとデメリット
- 3, 理想のオンライン
- 4, 高校生が期待するコミュニケーションの未来

## 第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は「グループ発表資料」をご参照ください）

参考：各班のポイント 1班が代表グループに選ばれました。

### 【1班】 ICTの付き合い方

今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは

提言 教育で新しいICT技術に持続的に適応していく力を！

メリットもある一方...

- ・生活の一部となり、手放せない（中毒）
- ・健康面での悪影響  
ex.視力の低下・ストレートネック

課題

- ・ChatGPTなどによる能力低下  
ex.考える前に調べる → 思考力低下
- ・新しいものに対する付き合い方の教育  
ex.最近出てきたChatGPTの使い方？
- ・能力による個人差

解決策

子どもへのICT教育が必須である。

・常に変わりゆくデジタル社会の中で、自分が幸福（Well-Being）をつかむには、どうすれば良いのかを自分で考え、適応していく力（Digital Citizenship）を1人1人が身につける

→デジタルウェルビーイングな社会に繋がる！

## 【2班】 情報教育革命 ～多様な社会へ～

提言 ICT を使うことによるメリットもあるが ICT 特有のデメリットも多くある。（会話の減少 誹謗中傷など）

自分たちは、現在情報教育を受けている高校生の視点からデジタルにおいて、教育と人間関係の繋がりについて考えました。

メリット

- ・場所と時間を気にする必要がない
- ・情報の発信が手軽
- ・情報の入手が簡単

デメリット

- ・人と話す機会が少なくなっている
- ・リモート授業などで理解度に差が出やすくなる
- ・誹謗中傷などの犯罪(LGBTQ+)

解決策

- ・情報教育年齢の引き下げ
- ・配布機器の規制強化
- ・vtuberによる多様化
- ・情報共有ツールの使用
- ・匿名性をなくす

## 【3班】 親と子の話し合いを生み出す

提言 教員へのリテラシー教育をさらに行う

現状

- ・子供は危険性の判断がしにくい
- ・親はデジタルに詳しくない 制限しか手段が無くなっている
- ・親から子供に十分な注意ができない

解決策

- ・セミナーを開く（入学説明会など）
- ・インフルエンサーとのコラボ

## 【4班】 若年層とインターネットの関り方

提言 若年層には一方的に教えるだけでなく、自分たちで考えることで、健康を保ち、犯罪やトラブルを防ぐことができる

- ・制限や監視などが解決策ではないこと



- ・インターネットの問題について深く考えることで、身近に感じることができる  
メリット
- ・幅広い年代の情報の入手がしやすい
- ・離れたところでの交流ができる
- ・世界中と繋がれる
- ・使い方によっては人として成長できる

#### デメリット

- ・知識不足により、無責任な発言でトラブル、いじめにつながる
- ・情報リテラシーがあまりない
- ・インターネットの依存により、睡眠不足、運動不足が原因になり集中力や学力の低下につながる

#### 解決策

##### 1.ディスカッションを行う

→自分たちで考える力を育み、善悪に対する判断力を上げる

ネットに関するニュースや興味のある話についてディスカッションを行う

効果→・他人事ではなくなる

- ・語彙力や表現力の向上
- ・情報リテラシーの向上

##### 2.人とかかわる場を作る

→ネット依存を防ぐ（例：学校からの宿題、課外学習）

- ・学校側からの課題として、集団で目標を達成する課外学習を行う

効果→・人とかかわる環境が生まれる（ネット依存防止）

- ・顔を見てしゃべる機会を作る

### 第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフト（Google スライド）を活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

今年はようやくリアル開催ということでのどのグループもその分内容が充実していてスライドとしてよくまとまった発表となりました。すぐにできる提言もたくさんありました。

#### 講評：大阪私学教育情報化研究会 会長 村上 徹 様

本当に活発に意見交換がされ、またどのグループも短い時間の中でしっかりと提言をまとめてくれました。本当に有意義だったと思います。未来を創る担い手にエールを送って終わりました。

その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行くグループの選定投票を行い、またそのグループで代表者の選定投票を行い 関西創価高校が代表校に選出され、全体会で発表されました。

終了後記念写真をとりました。終わってからも名残惜しく情報交換を行うメンバーもたくさんいました。

参加校：	大商学園高等学校 大阪府立東高等学校 早稲田摂陵高等学校 アサンプション国際高等学校 常翔啓光学園高等学校 関西創価高等学校（順不同）
日時：	2023年9月17日（日）12:00-16:30
場所：	大阪私学会館
参加人数：	熟議参加生徒 26人 見学者・関係者 16人（教員・教育関係者・その他） 合計： 42人
熟議グループ：	担当ファシリテーター 橋田 喜乃、鈴木 一平、高橋 悠太

#### 4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
大阪私学教育情報化研究会	会場、什器備品手配 飲食手配、庶務
エースチャイルド株式会社	講演 他

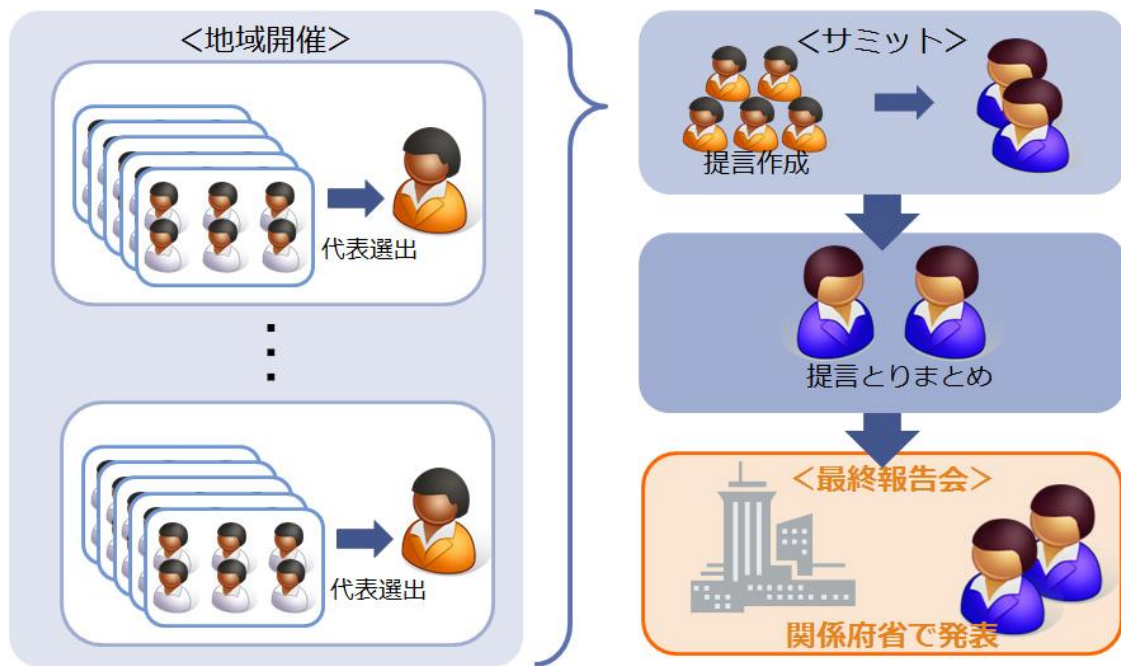
#### 5. 高校生 ICT Conference 2023 サミット

高校生 ICT Conference 2023 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

#### 6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2023 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏む。



## 7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2023 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2023 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以 上